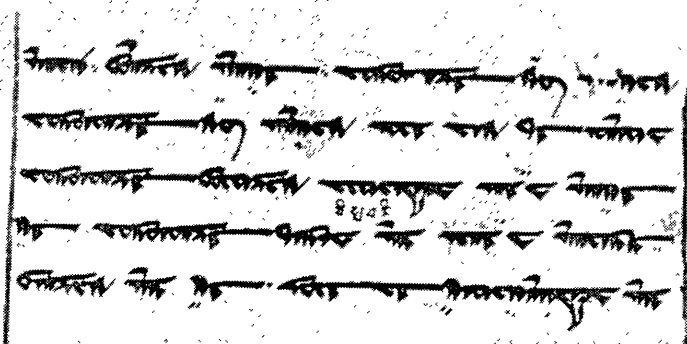


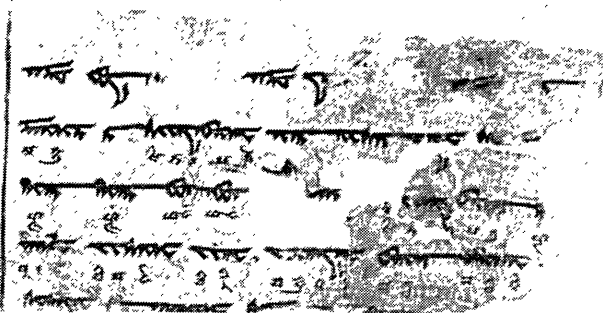
579
 580
 581
 582
 583
 584
 585
 586
 587
 588
 589
 590
 591
 592
 593
 594
 595
 596
 597
 598
 599
 600
 601
 602
 603
 604
 605
 606
 607
 608
 609
 610
 611
 612
 613
 614
 615
 616
 617
 618
 619
 620
 621
 622
 623
 624
 625
 626
 627
 628
 629
 630
 631
 632
 633
 634
 635
 636
 637
 638
 639
 640
 641
 642
 643
 644
 645
 646
 647
 648
 649
 650
 651
 652
 653
 654
 655
 656
 657
 658
 659
 660
 661
 662
 663
 664
 665
 666
 667
 668
 669
 670
 671
 672
 673
 674
 675
 676
 677
 678
 679
 680
 681
 682
 683
 684
 685
 686
 687
 688
 689
 690
 691
 692
 693
 694
 695
 696
 697
 698
 699
 700
 701
 702
 703
 704
 705
 706
 707
 708
 709
 710
 711
 712
 713
 714
 715
 716
 717
 718
 719
 720
 721
 722
 723
 724
 725
 726
 727
 728
 729
 730
 731
 732
 733
 734
 735
 736
 737
 738
 739
 740
 741
 742
 743
 744
 745
 746
 747
 748
 749
 750
 751
 752
 753
 754
 755
 756
 757
 758
 759
 760
 761
 762
 763
 764
 765
 766
 767
 768
 769
 770
 771
 772
 773
 774
 775
 776
 777
 778
 779
 780
 781
 782
 783
 784
 785
 786
 787
 788
 789
 790
 791
 792
 793
 794
 795
 796
 797
 798
 799
 800
 801
 802
 803
 804
 805
 806
 807
 808
 809
 810
 811
 812
 813
 814
 815
 816
 817
 818
 819
 820
 821
 822
 823
 824
 825
 826
 827
 828
 829
 830
 831
 832
 833
 834
 835
 836
 837
 838
 839
 840
 841
 842
 843
 844
 845
 846
 847
 848
 849
 850
 851
 852
 853
 854
 855
 856
 857
 858
 859
 860
 861
 862
 863
 864
 865
 866
 867
 868
 869
 870
 871
 872
 873
 874
 875
 876
 877
 878
 879
 880
 881
 882
 883
 884
 885
 886
 887
 888
 889
 890
 891
 892
 893
 894
 895
 896
 897
 898
 899
 900
 901
 902
 903
 904
 905
 906
 907
 908
 909
 910
 911
 912
 913
 914
 915
 916
 917
 918
 919
 920
 921
 922
 923
 924
 925
 926
 927
 928
 929
 930
 931
 932
 933
 934
 935
 936
 937
 938
 939
 940
 941
 942
 943
 944
 945
 946
 947
 948
 949
 950
 951
 952
 953
 954
 955
 956
 957
 958
 959
 960
 961
 962
 963
 964
 965
 966
 967
 968
 969
 970
 971
 972
 973
 974
 975
 976
 977
 978
 979
 980
 981
 982
 983
 984
 985
 986
 987
 988
 989
 990
 991
 992
 993
 994
 995
 996
 997
 998
 999
 1000

Handwritten text in a cursive script, likely a manuscript or a collection of letters. The text is written in a dark ink on a light-colored paper. The script is dense and flowing, with many ligatures and flourishes. The text is arranged in several lines, with some lines starting with a large initial letter. The overall appearance is that of a historical document.

IVb



IVa



右利本外名見殘字旁註字者
 注差其持人皆誤佛書也
 康成百洞日君印

中 村 不 折 氏 旧 蔵 ウイグル語文書断片の研究

庄 垣 内 正 弘

1. 京都大学文学部が所蔵するウイグル語文書の複製写真の中には、同じ体裁の2冊の写真帳に綴じられた未公開の十数葉の断片写真が存在する。この写真帳の表紙には何れも「中村不折氏所蔵」と記された手書の付箋が貼られている。これがいつだれの手によって貼付されたのかはわからないが、これらの写真が中村不折氏蒐集品中より撮影されたものであることに間違いはなかろう。だが、写真のもととなった文書は中村氏蒐集品の蔵されている東京根岸の書道博物館には既に存在しないとのことである。それらが現在何処にあるかは定かでない。

ここでは、この2冊の内、大型の4葉の卷子写本の断片と2葉の版本小断片及び1葉の極小写本断片を含む1冊について論及したい。

この1冊に綴じられた断片が如何なる経路を経て中村氏の手に入ったのかは知り得ないが、上の2葉の版本断片の左傍の台紙に書き込まれた漢文の註記からは次のごとく中村氏以前の所有者の名前を知ることができる。

右刻本畏吾児残字旁以梵字音

注蓋其種人皆読仏書者也

庚戌二月朔日晋郷

晋郷の後には陶廬の印が捺されている。庚戌というのは西暦1910年に相当するものと考えてよいが、字名が晋郷、号が陶廬という人物は、清末の学者で、新疆や甘肅等の官吏を務め、多数の文献を蒐集したことで知られている王樹枏(1857—1936)をおいて外にはない^①。従ってこの註記の右傍にある2葉の版本断片はもとは王樹枏の蒐集した文書であったと考えてよい。またこの2片と共にこの同じ写真帳に収められた他の断

片がやはり王氏の蒐集品中にあった可能性は強い。

以下には、これら断片について、解題、転写、翻訳及び註釈を掲げた。但し大型卷子写本断片4葉の内1葉は既に別の場所に寄稿済みであり、又、漢文註記の左傍にある3行よりなる草書体手書きの極小断片については別の機会に発表したいのでここではこれら2葉に関しては論じない。

なお、卷子写本断片3葉をⅠⅡⅢで、版本小断片2葉をⅣa Ⅳbで示したい。

テキストの転写に際して、欠損部分は斜線で示すが、再構できるものは角括弧にこれを閉じる。

2. 楷書体のウイグル文字で書かれた38行よりなる卷子写本の断片Ⅰは、その内容が漢文偽経といわれている『仏説天地八陽神呪経』の一部に一致することがわかった。

この漢文仏典に同定できるウイグル語訳はこれまでも十数種の断片類が発見されている。この内、最長のものは A. Stein の蒐集した卷子写本で466行を保っている。これにつぐものが大谷蒐集品中の405行のこれも卷子写本である。両断片中後者の大谷写本を使用した羽田亨博士の研究がこのウイグル仏典研究のはじまりといつてよい。その後 W. Bang (A. von Gabain/G.R. Rachmati) が上の Stein 蒐集の写本を底本とし、大谷写本、ベルリン文書などを併用して校訂テキストを発表した。その間あるいはその後、数行から数十行の小断片もいくつか公表され研究もされたが、これら文書類全体の整理と分類は未だ十分には行われていない。同一仏典に所属し、内容面・言語面などからこれ程多くの変種をもったウイグル語仏典は他にはないので、各断片の個々の性格とお互いの関係の究明は色々の方面から重要な意義をもつものと考えられている。従ってここで扱う新しい断片の性格の解明はこのような総合研究にとって重要な役割を果すものと考えてよい。

断片Ⅰは、Bang 校訂テキストの130～172行、羽田テキストの102～138行に該当しているが、外にも『吐魯番考古記』中の第96図及び *Kuan-ši-im Pusa* の Beilage II の各数行と重なり合っている。この仏典に所属するベルリン文書はほとんど公表されていないが、Bang 校訂テキス

トからは、断片 I の内容がベルリンの数種類の断片によって被われていることがわかる。

上記諸断片を語句の異同という点に着目して断片 I と比較してみると、断片 I は他のどれよりもベルリン文書に近い性格をもっていることが明らかにされる。以下にこの事実をよく示している文例とその解説を掲げたい^⑩。異同は断片 I の下線部にみられる。

I = 断片 I B = ベルリン断片 (Bang 校訂テキストの註を用いた)

L = Stein 蒐集の写本 (Or. 8212-104) H = 羽田テキスト

- (1) I anta säkiz bodistvlar äzrua xormuzta ulatı qamay tängrilär
tüzün yavaš qutlar vaxšiklar (cf. p. 08 11~12)

B I と同じ (Bang 註143 B 24 B 26)

Lyaruqlar tängrilär qutlar waqšiklar.....(142~143註)

Hyaruq tängrilär qutlar waqšiklar.....(113~114)

明ラケキ 神 靈

cf. 有八菩薩。諸梵天王。一切明靈 (1423 中)

漢語「明」に対して、断片 I 及び B は tängrilär 「神」が、L H は yaruqlar tängrilär 又は yaruq tängrilär 「明神」が当たり、「靈」に対しては前 2 者は tüzün yavaš qutlar vaxšiklar 「善穩靈」が、後 2 者は単に qutlar vaxšiklar 「靈」が対応していると考えてよい。

- (2) I inčä ötkürü [usar] ol oq öng körk yana tüzün önglög burxan
titir. (cf. p. 09 30~31)

B I と同じ (Bang 註 161 B 25)

Lol tinliş ätüzü.....(161~163)

Hol tinliş ät'özi.....(130~131)

此ノ人ノ 身ハ

cf. 即是妙色身如来。(1423 中)

これと同じ文形式で漢文の「即是妙音声如来」に当るウイグル文が34~35行(cf. p. 09)に現われる。この箇所はかなり破損されているが、確認できる部分からは明らかに B 25 に一致することがわかる：ötrü ol oq ün [yana soyančiy ünlög atliş burxan titir], 括弧内は B によって再構したが、この文に対応する L は次のごとくである：ol tinliş ätüzü tüzün

ünlüg burqan ätüzü titir (167~168)。HにはLの2つの ätüzü は存在しないが、両者はIやBとは別の一種に所属しているといってよい。

断片I及びBと、L H との最大の異りは、「妙色身如来」あるいは「妙音声如来」という補語に対して titir「という」の主語となるものが、I Bはol oq öng körk「その色相」あるいは ol oq ün「その音声」が立つのに対して、L H は ol tñliḡ (ätüzü)「その人 (の身)」が立つところである。対応する漢文の文脈からは L H の方が文意に適っているように受けとめられるが、I B を誤りとする 것도できない。

又、『吐魯番考古記』と *Kuan-ši-im Pusar* の断片はこの「妙音声如来」の部分は重っているが (5~6行目, 3行目), 前者はBと全く一致している。後者は次に示すように語句の異同はあるが titir の主語は B I と同じく ol oq ün を用いている: ol oq ün yana soḡančīḡ ün uluy burxan titir「その音声は即ち妙音大如来という」。前者は版本であって、同じく版本である B25 と同一版木から印刷された可能性はある。又、後者も LH よりは B や I に近いものであったとその性格を推定してよい。

(3) I qamay tñliḡlar üčün [bu nom] bitigig kingürü ača yada nomlasar, (cf. p. 08 15~16)

B I と同じ (Bang 註147 B26)

Loqisar nomlasar, (147)

Hnomlasar, (117~118)

説 キ

cf. 為諸衆生。講説此經。(1423 中)

漢文の「講説」に対し、Lは「読み説くなら」、Hは「説くなら」が対応し、BとIは「広く流布し説くなら」が対応していることになる。

(4) I köngülü yimä burxanlarnıḡ köngli titir tip bilmiş krgäk. (cf. p. 08 18~19).

B I と同じ (Bang 註150 B26)

Lymä burqanlar.....titir. (149~150)

Hburqanlar.....ät'öz titir. (111~120)
(其ノ心ハ) 仏 (心) 身 ナリ

cf. 即知身心仏身法心。(1423 中)

漢文「知」は I 及び B の tip bilmiş krgäk 「……と知るべし」に対応しているが、L H にはこの語に当るウイグル語はない。

以上の4文例は、何れも断片 I がベルリン文書と一致していた。しかし Bang の註記に従う限りでは、断片 I はベルリン文書と完全に一致しているのではなく、後にテキストの註で示すごとく多くの小さな語句の異同がみられる。とりわけ次の箇所は断片 I が B も含めて他の文書類から弧立している部分である。

- (5) I turqaru buši ulatī altī paramitlarda qatīylanip aqiysiz ariy turuy at'öz bulup bodistvlar yolīn bütürdilär kiningä ular tüzkarinčisiz yig tüzü köni tuymaqqa tägirlär tüzü yaruy atly burxan bolurlar (cf. p. 07 4~7)

H turqaru puši ulatī altī paramitqa qataylanur ärti ančolayu xataqlanip burqan yolīn tükädi burqanlarning aqmaz artamaz ariy turuy at'öz bolti tüz karinčisiz tuymaqqa tägdi tözü yaruy atly burqan bolti. (106~109)

cf. 兼行布施。平等供養。得無漏身。成菩提道。号日普光。如来
応正等覺。(1422上)

LはHと比べて若干の語句の異同はみられるが基本的内容はHとかわるところはない^⑩。又、Bang 校訂テキストによればこの部分はBとも重なることになるが、註記のないところから判断してBはLと一致するものと見做してよいであろう。さて、上掲の断片 I とHの文章は色々の点で違いが見出されるが、特に漢文の「得無漏身」に対応するウイグル語はH(Lでも)では aqmaz artamaz ariy turuy at'öz bolti の如く現われ、しかも断片 I や漢文の「成菩提道」とは順序が逆になっている。

「菩提道」は断片 I では「菩薩道」の意味 bodistvlar yolī が現われるが、H(L)では burqan yolīのごとく「仏道」と訳すべきウイグル語がこれに対応している。又「正等覺」は断片 I の tüzü köni tuymaq「一切を正しく覚る」がウイグル語におけるふつうの対応術語であるが、H(L)にはこれに tuymaq「覚る」の形式が当てられている。

(5)の他に、断片 I では1行目の文と2行目の文がHやL(あるいはB)からみて入れ換わっている(cf. p. 023註(1)~(2))。この部分に該当する漢文は「(有優婆塞優婆夷)。心不信邪。敬崇仏法。書写此經。受持読誦。所作所為。」(1423 上)であって、断片 I はこの漢文の「心不信邪」が「受持読誦」の後に入ったことになる。しかしこれによって断片 I のウイグル文の内容が破壊されているわけではなく、この入れ換えが誤写あるいは原典からの誤訳ともいい難い。

以上のごとく、断片 I と他の断片類との間の語句の異同はかなり複雑であったが、断片 I は、ベルリン文書に非常に近い性格をもっていることがわかった。しかしこれと同一種とはいえず、これに近い独立した一種の性格であったと推定できる。

この断片 I の性格が如何にして形成されたかについては、この断片を含む全ての断片類が総合的に研究されてはじめて明確にされることである。しかし上で示したように断片 I と他の断片、とりわけLやHとの間の語句の異同は、同一翻訳書の書写の過程で起ったものにすれば大きすぎるといえる。おそらくこのような異同は、同一原典からの異訳あるいは内容の異った複数原典からの翻訳に起因しているものと推定すべきである。

この各種断片からなる仏典のウイグル語、とりわけLHのものは仏典言語としては特異な性格を示している。たとえば ayiγ 「悪」に対する aniγ はふつうはマニ教文書に現われる形式であるが、この LH では両形式が並用されている。又、サンスクリットの *asura* 「阿修羅」 *śākya-muni* 「釈迦牟尼」 *saṃsāra* 「輪廻」 *kiṃnara* 「緊那羅」などは仏典のウイグル語ではふつうはトカラ語を経由した *asuri* < *toch. B asure* *šaki-muni* < *toch. śākyamuni* *sansar* < *toch. saṃsār* *kinari* < *toch. kinnare* の定着形式を使用するが、LH にはソグド語を経由したと推定できる *asur* < *sogd. ’sṵr* *saṃir* < *sogd. sm’yr* *sangsar* < *sogd. snks’r* *kintir* < *sogd. kyntr* の形式が現われる。このような一時的にソグド語から借用したと考えられる形式の出現は、この仏典がソグド語と何らかの係わりをもっていたことを意味している^⑩。しかし断片 I には ayiγ (aniγ) も又上掲サンスクリットも偶々現われないので、この断片の前後の欠落部分を構成していたウイグル語がソグド色をもっていたか否かはわから

ない。一方ベルリン断片は Bang 註記の限りでは、たとえば上掲の *kin̄nara* が *kinari* と書かれているように (Bang 註432), これを *kintir* とする L や H に比べてソグド色の弱いものであったことがわかる。従って、内容がベルリン断片と近い断片 I の言語も同様にソグド色の弱いものであった可能性はある。

なお、ウイグル文字中 *q* は一般には *y* の文字の左傍に 2 点を付してこれを表記するが、ウイグル語中ではこの表記は必ずしも厳密ではなく *q* と *y* は混同するのが常である。しかし断片 I の *q* は 2 点ではなく 1 点が付せられ、しかも極めて厳密に表記されていて *y* と混同することはない。この付点の方法と厳密な表記はウイグル語においては特異な存在といえる。

以下には断片 I の転写と翻訳を掲げたいが、訳語ははできるだけ対照となる漢文のものを採用したい。欠損部分は Bang 校訂テキストに従って再構したが、註記にベルリン文書の記載があればそれを採用する。

なお、テキスト註ではできるだけ他の断片類との違いを示したい。

<テキスト>

- (1) *köngülin bu nom bitigi* [g tutar ärtilär bitiyü oqıyu ayayu ayırlayu tapınur
……心で この 経 典 を 得るのであった。書き 読み 崇 敬し 礼
udunur ärtilä]r
拝する のであった。

心不信邪 敬崇仏法 書写此経 受持読誦

- (2) *t(ä)rs tätrü nom törü yäk* [iëkäkig] *kirtkünmäz* [ärt]i-lär..nä törlüg
邪 倒 法 鬼 魔 を 信 じ な かった。如何なる種の

- (3) *itig yaratıy bar ärsär körum-çi yul*[tu]z[çi]-qa ayıtmaz itär ärdi-lär..
所作 所為が 有ろうとも 予言者 星 占 者 に 問うことなく為すのであった。

所作所為 須作即作 一無所問

- (4) *ol antay kirtü köngül ücün köni kirtgünë ücün turqaru buşı ulatı altı*
更 に 正 心 故に 正 信 故に 常に 布施 及び 六

以正信故 兼行布施 平等供養

- (5) *parmüt-larda qatıylanıp aqıysız ar*[ı]y *turuy ät'öz bulup bodıstv-la*[r] *yolın*
波羅密 に 精進し 無漏の 清 淨 身を 得て 菩薩 道を

得無漏身 成菩提道

- (6) *bütürdi-lär kiningä ular tüz-kär*[i]nësis *yig tüz-ü köni tuymaq-qa tägir*
完達した。その後 彼らは 比類のない 上なる 正 等 覺 へ 至る。

号日普光如来应正等覺

- (7) *lär tüz-ü y(a)ruq atly burxan bolur*.[la]r..k(a)lp *ödi uruy tolu atly uluşı*
普 光 という 仏に 成る。劫 時を 大 満と名付け 国

balıqı
城を

劫名大(満)

(8)qıdıysız bulungsuz buçaqsız atlı bud[u]nı alqu bodıstıv-lar yoriyınca
無 辺 無 隅 と名付け 人民は 全て 菩薩 の 歩行のごとく

国名無辺 但是人民 行菩薩道

(9)yoridaçı bolup bulunčsuz nom b[o]şyunur-lar taqı y(i)mä tidiysız bodıstıv
歩む者 となり 無所得 法を 学ぶ。 復 た 無 礙 菩薩

siz
汝は

無所得法 以是經威德 獲如是法 復次無礙菩薩

(10)inčä biling•• birök bu nom bitig bu čambudivıp atlı yir suvda qayu
次のごとく知るべしもし この 経 典を この 閻浮提 という 世 界で 各

此八陽經 在閻浮提

(11)qayu yirdä bodunta bar ärsär••anta säkiz bodıstıv-lar äz-rua xormuz-[ta]
各 所で 人民が 所有するなら そこで 八 菩薩 梵 天 帝 釈

在在処 有八菩薩 諸梵天王

(12)ulati qamay t(ä)ngri-lär tüz-ün yavaş qut-lar vaxşıklar turqaru xu-a
及び 一切 天 善 穩 靈 は 常に 華

一切明靈 圍繞此經

(13)yavışyun yidın yiparın inčä a[y]ayur ayır-layur qaltı burxan-[lariy]
鬘 薫 香でもって このように 尊 敬 する。 恰も 仏 を

香華供養

(14)tapınurča burxan-larda adruqsuz tutar-lar•taqı y(i)mä tidıysız [bodıstıv]
勤行するごとく 仏 に 無異を 保つ。 復 た 無 疑 菩薩!

如仏無異 仏告無礙菩薩 摩訶薩言

(15)qayu tüz-ün-lär oylı tüz-ün-lär qız-ı qamay tınly-lar ücün [bu nom]
各 善 男子 善 女人 一切 衆生の ために この 経

若善男子 善女人等 為諸衆生

(16)bitigig kingürü aça yada no[m]l[asa]r täring yörügün uqtur [-sar ötkürsär]
典 を 広く 流 布し 説くなら 深い 理を 解するなら 悟るなら

講説此經 達深奥相

(17)ärtüngü täring töz yiltiz nomuy uqsar bilsär••ötrü tınly ät'öz-i
甚 深の 根 本 法を 解するなら 知るなら そのとき(その)人の身は

得甚深理

(18)burxan-lar-nıng ät'öz-i titir••köngülü y(i)mä burxan-lar-nıng köngülü
仏 の 身 という。(その)心は 即ち 仏 の 心

即知身心 仏身法心

(19)titir tip bilmiş k(ä)rgäk nä ücün tip tisär kim ol tınly turqaru
という と 知る べし。 何 故か と いえば その 人は 常に

所以能知

20)bilgä biliglig köz-in adruq adruq alq̄n̄cs̄z körkklä öng k[örk]

智 慧ある 眼で 種 種 無尽の 美 色 相を

即是智慧眼 常見種種無尽色

東

21)körür..ol öng körk töz-i [yī]l[tū]z-ī yana yoq q̄ruy titir..ol

見る。 その 色 相の 根 本は 即ち 無 空 という。その

洋

22)yoq̄uy bilir bilgä bilig oyruy burxan-lar-n̄ng biligi titir anī

無を 知る 智 慧は 正に 仏 の 智 という。それ

学

23)üçün tinly-lar ädgü köni yolēi yirtēi bulup alq̄u törüg yoq körsär

故に 衆生は 善 真の 指導者を 得て 一切 法を 無と 見るなら

報

24)ötrü ol tinly-n̄ng köngülü biligi burxan-lar-n̄ng köngülü biligi

そこで その人 の 心 智は 仏 の 心 智

25)titir..q̄altī inčä körsär..ötrü öng körk ulatī altī törlüg

という。もしこのように見るなら そのとき 色 相 及び 六 種

26)yayıda q̄utrulur burxan q̄utın bulur..[o]l kim öng körk titir..

賊から 救われる 仏 果を 得る。 その 色 相と いうのは

色即是空

27)yoq q̄ruy y(i)mä ol'oq ärür..ol kim öng körk titir..yoq q̄ruy

無 空 即ち そのもの なり。その 色 相 というのは 無 空

空即是色

28)y(i)mä ol oq ärür..öngdä öngi yoq q̄ruy [bultu]q̄maz yoq q̄u[ruyta]

即ち そのもの なり。色より 外に 無 空 無し。 無 空 より

29)öngi y(i)mä öng körk bultuq̄maz..ulatī ašamaq saq̄inč [q̄ilinč]

外に 即ち 色 相 無し。 更に 受 想 行

受想行識亦空

30)bilig inčä ök bilm̄s̄ uq̄m̄s̄ k(ä)rgäk..inčä ötkürü [usar]

識をもこのように 理 解せねばならない。 このように 悟り 得れば

31)ol oq̄ öng körk yana tüz-ün önglüg burxan titir [yimä qul]

その 色 相は 即ち 妙 色 如来 という。また (その)耳

即是妙色如来

32)q̄aq̄ı turq̄aru adruq̄ adruq̄ alq̄n̄cs̄z ün äši-dür..ol kim ün t[itir] yoq

は 常に 種 種 無尽の 声を 聞く。 その 声というのは無

耳常聞種種 無尽声 声即是空

33)q̄uruy yimä ol oq̄ ärür ol kim yoq q̄uruy titir ün yimä ol'oq̄ ärür..ündä

空 即ち そのもの なり。その 無 空 というのは 声 即ち そのもの なり。声より

öngi yoq q̄uruy bultuq̄maz yoq q̄ur[uyta]

外に 無 空 無し。 無 空 より

空即是声

34)öngi yimä ün bultuq̄]maz [äšitmis̄ ünüg alqu inčä ötkür]ü usar..ötrü ol

外に 即ち 声 無 し。 聞いた 声を 一切 このように 悟り 得れば そこでそ

oq̄ ün

の 声は

35)[yana soyančiy ünüg atliq̄ burxan titir yimä] burnı turq̄aru adruq̄ adruq̄

即ち 妙 音 と名付ける 如来 という。また (その)鼻は 常に 種 種

即是妙音声如来 鼻常嗅種種

第六十一卷

二四六

36[alqıncısız yid yıpar yidlayur ol kim yid yıpar] titür••yoq quruı y(i)mä ol
無尽の 薫 香を 嗅ぐ。 その 薫 香 というのは 無 空 即ち その
無尽香 香即是空

37[oq ärtür ol kim yoq quruı titür yid yıpar] y(i)mä [ol']oq ärtür
ものなり。その 無 空 というのは薫 香 即ち そのものなり。
yidy(i)parda
薫 香 より

空即是香

38[öngi yoq quruı bultuqmaz yoq quruıda öngi yimä yid yi]par boltuq[maz
外に 無 空 無し。 無 空より 外に 即ち 薫 香 無し。

3. 断片Ⅱは楷書体の手書きによる卷子写本で、36行を残している。内容は「懺悔」(*kṣamayati*)に関する仏典の一部であることがわかった。「懺悔」あるいは「懺法」の内容をもったウイグル語仏典はこれまでも数種類が発見されている。この内、最長のものは漢文『慈悲道場懺法』のウイグル語訳であって、その一部は K. Röhrborn によって発表されている。その他、*Suvarṇaprabhāsa* に所属する①1点はW. Bang(/A. von Gabain)によって研究された。又『懺法書』の題目のもとに1仏典中に収めることのできる多くの断片類が発見されているが、それらの各断片は F.W.K. Müller, Bang(/Gabain), P. Zieme ②そして筆者らによって研究された。③更に韻文で書かれた短い1断片が Bang(/Gabain), S. Tekin, G.R. Rachmati ④らによってそれぞれ研究された。⑤

しかし、この断片Ⅱは、以上の何れの内容とも一致しない新しい種類の懺悔仏典といえる。その内容は、先ず過去七仏、法、僧の三宝に敬礼し、次に悪業の後に懺悔によって赦罪された著名な過去人の例を出し、更に彼らを範として寄進者である「我々」も懺悔をし赦免を乞うという事柄を表わしている。

「懺悔」に関するウイグル語仏典の特徴として、寄進者(懺悔者)の実際の個有名詞が本文中に現われるが、断片Ⅱでも、yütürmiş と bütür という名の2人の人物が登場する。このような人名は、もとは漢文仏典の「某甲」に当たる部分にウイグルで随意に挿入されたものと考えられ、この種の仏典の書写が世俗人のために広く行われていた事実を示すものといっていよい。⑦

断片Ⅱの大きな特徴といえるのは、このウイグル文が上の Bang(/Gabain) ⑧らによって研究された韻文断片と同じく詩文で書かれていること

である。断片Ⅱは附録に載せた写真からわかるように、表面上はふつうの散文とかわらない書写体裁を示しているが、文体は明らかに一種の詩の形式を呈している。一般にこの時代のウイグル語仏典の詩型は頭韻を踏んだ4句1節を典型としているが、断片Ⅱのものは必ずしもこの型に従ってはいない。1節は2～6句にまたがっている。またこの断片の中ほどに現われる個有名詞にはじまる詩文の一群は、頭韻を踏んではないし、節の切れ目も不明瞭である。即ち、ここにおける詩はウイグル詩としてはかなり粗雑な出来であったといえることができる。しかしこのような粗雑な詩からはウイグル詩の形成法の一端を知ることができる。ウイグル詩は一般に節がかわるごとに頭韻の音色を変える傾向にあるが、ここでは第2、第3、第4の3節が連続して同じ頭韻 *kä*- を踏んでいる。これは各節の最下の句頭に立つ単語が偶然に第1音節に *ka*- をもつサンスクリット来源の仏名であって、それに調和して他の句頭がウイグル語単語の *kä*- を踏んだために節ごとに頭韻をかえることができなかったものと判断できる。このことは少なくともこの詩に限っては頭韻が各節の最下の句頭を基準として下から上に向かって決定されたことを示している。だがこの方法がウイグル詩の頭韻の一般的な形成法であったか否かは今のところ決定できない。

以下に掲げるウイグル語テキストは詩の形式をもって示したい。

<テキスト>

(01) /// birlä ///

(1)tip..

bir uēluy köngülin yükünürbiz

višvabu atly burxan [quṭinga.. ..]

(2)küzä yügürür qilinčimz-nī

kämišälim qinliqta..

k(ä)ntün /// (3)bilikig

käsgük-lälim barča-nī tip

käz-igin tutup yükünü[rbiz]

(4)k(a)rkasuntī atly burxan quṭinga.. ..

käztä ärtz-ün biz-ing (5)qilinčimz

kāngränmälim kin ödtä tip..

kirtgünüp töpün yūkünür biz

(6)kanakamunī atly burxan qūtinga.. ..

kärüm-däki känd-kyü i//

(7)körk-ky-äsin körälim+..

käcip barmış tüz-ün-lär-ning

käligin bariy[in] (8)biräl(i)m tip..

k(ä)ntü öz-ümüz-ük yūkünür biz

kašip atly burxan (9)qūtinga.. ..

šastır nomuy ötgürmiş

šap alqış-lıq tüz-ün-lär..

(10)šaz-in-liq otruy içintä

šat-tuy yumz-uy tikz-ün tip..

šašmaq (11)-süz köngülin yūkünür biz

šakımunī atly burxan qūtinga [.. ..]

(12)örtüg-lärig tarıarip

üç ayulariy öcürüp..

ürük uz[atı] (13)yūkünür biz

üstünki yig nom-larqa..

boşuy turur niz-vanī-l[ar] (14)-ning

buusın siksilin kitärip..

burxan-liq bilig öritip

bodī (15)köngülin yūkünür biz

bursang quvray-lar qūtinga..

taluy-ta (16)täring buyan-lıy

d(a)rmaxarıkī-lar köz-ätz-ün..

tamir-liy yiltiz (17)-liy qılınčımz-nī

tanutulturalım t(ä)rk ödün tip

tavranmaq köngülin (18)yūkünür biz

tanglančiy körklä maytrī-qa..

antada b[asa] yükünürbiz
(19)aqıysız ayır uluy arxant-larqa..

üç ärdini-kä inanıp
(20)ökünç köngül tururup
öz qonuqumuz titräyü..
öngümüz-ka (21)yangılmış yaz-uqumuz-nı
ötkürü topulu körälim..
sumili sangataz (22)-i-ta ulatı toyın-lar..
açadaşatru milintrı-tä ulatı ilig-lär..
(23)utpalavarnı-ta ulatı ş(i)mnanç-lar..
kamabiri-ta ulatı urı-lar..
(24)şivnyı-ta ulatı çantal-lar..
angulamalı-ta ulatı oyır-lar..
(25)advakı-ta ulatı yäklär
alqinçsiz qiltı-lar ayıy qılınçıy..
kinintä (26)yana bilinip
kşantı qiltı-lar tüz-ükün..
bursang quvray birgärü
(27)boşuy kşantı birdi-lär ular-qa..

ançulayu y(i)mä biz yütürmiş (28)bütür birlä ky-ä..
anaqa ata-qa yaz-mış-ning
ayıy qılınçlarımz (29)-nı saqınıp..
aya-y-qa tägimlig-lär-ning üskintä
arqu kşantı (30)qılıu täginür biz..

toya qılınçly öz-ky-ämz
tolıyatmış // ögümüz
(31)tuıyım aǵ-un tutmıšımz-ta..
tumluıyta isig-dä ämgätip
toǵuz (32)ay on k[ün] kötürüp
tolıtuıtuıyurtunguz-lar..
tuıytumuz ärsär (33)ögüçümüz
toz-dın topraq-tın örü änlip..

tolp ät'öz-ümüz-n[i] (34)yup
torqu-ta işgirti-dä yörgädinti..

ayıy qılınç //// (35)//
atanıy künlärning içintä..
amınuž-ı atly ////

＜翻 訳＞

断片Ⅱのウイグル語は、頭韻を踏むために本来の語順を入れかえたものがしばしば現われるが、翻訳に際しては人称語尾以外はできるだけテキストの語順に忠実に日本語訳したい。：(コロン)=句末。 $\overleftarrow{AB} = B$ あるいはB以下の句の内容はAにかかる。

(1)……と：一心に我々は敬礼する：毘舍婆という仏福に：

(2)輪転する我々の業を：捨てよう牢獄に：自ら〔得て悟りの〕(3)智を：断ち切ろう全てをと：改心し我々は敬礼する：(4)拘楼孫という仏福に：

転去させるべし！我々の(5)業を：愚痴をこぼしたくない後時においてと：信心し我々は敬礼する：(6)俱那含牟尼という仏福に：

我が後続の若者//(7)身を見よう (i.e. 考えよう)：過去の諸善人の：往来 (i.e. 継承)を(8)与えよう (or 知ろう?) と：我々自身敬礼する：迦葉という仏(9)福に：

論経に通じた：受記した諸善人，：(10)教えの島に：梯子 (or 橋?) を建てるべし！と：我々は空(11)なる心で敬礼する：釈迦牟尼 という 仏福に：

(12)遮蔽物を除去し：三毒を消滅し：間断なく(13)我々は敬礼する：最上法に：

放逸煩惱(14)の：威力を追い遣り：仏の智を上らせ：菩提(15)心でもって

我々は敬礼する：[←]仏僧集団の福に：

海中で深甚の⁽¹⁶⁾福德もてる、：法を食するもの達（i.e. 仏）を守護す
べし、：筋ある根⁽¹⁷⁾ある我々の業を：発露しよう即座にと：急切心で⁽¹⁸⁾
我々は敬礼する：[←]優美なる弥勒に：

次に復た我々は敬礼する：[←]⁽¹⁹⁾不動重大諸羅漢に：

三宝を信じ：⁽²⁰⁾悔心を上らせ：自らの宿（業）が揺れ：以前に⁽²¹⁾過誤
した我々の罪惡を：説き明かしてみよう：

Sumedha(?), *Saṅghadāsa* ⁽²²⁾などの諸比丘：阿闍世，弥蘭陀などの
諸王：⁽²³⁾優波羅色などの諸比丘尼：*Kampilla*(?)などの諸童子（or 王
子?）：⁽²⁴⁾ *Śivaṅgin* などの諸旃陀利：鴛堀摩などの諸盜賊：⁽²⁵⁾呵吒薄拘
などの諸夜叉は：無限に為した惡業を：後に⁽²⁶⁾復た悟り：彼らは懺悔を
した明々と：[←]仏僧集団は一同に：⁽²⁷⁾赦罪を与えた彼らに：

このように、我々 *Yūdūrmīś* と ⁽²⁸⁾*Būtūr* は共に：母父へ罪したこと
の：我々の惡業⁽²⁹⁾を考え：諸世尊に面し：一切を懺悔し⁽³⁰⁾了える：

罪業ある我々自身を：苦しめた//我々の母（i.e. 仏?）：⁽³¹⁾我々が再生
を得たとき：寒に暑に苦しめ：⁽³²⁾九ヶ月十日堪え：苦しめてあなたは生
ませしめた：

我々が生れたなら⁽³³⁾我々の母は：塵埃より現われ降り：全ての我々の
身体〔を〕⁽³⁴⁾洗い：絹布で包ませた：

惡業///// ⁽³⁵⁾//：選択の日々の内に：*Amaṇuṣya* という/////

4. 断片Ⅲは楷書体文字の手書きによる卷子写本断片で35行を残してい
る。断片ⅠⅡと異って字体はかなり乱雑であり、綴字の誤りや書き直し
箇所も多く、およそ直当な書写とは思えない。おそらくある仏典の下書
きか、落書き程度のものではあったと考えられる。しかし文字の判読は可

能であり内容も一応まとまっているので、この断片をウイグル仏典の一種として扱うことはできる。

内容は、断片Ⅱと同じく「懺悔」に関係したものであるが、如何なる仏典の1部かはわからない。8行目の.....yarliqamış şlok taqşutın üzü「.....*śloka* の詩において宣った」以下には詩文と考えられる文が続いているが、その詩の形式は断片Ⅱのものよりは更に粗雑な出来といつてよい。この部分は詩の形式でテキストを掲げたい。

<テキスト>

(1)///// k(ä)rgäk (2)///// bäs ärngäk-in ägip uluy (3)///// törlüg ariy aš ičkü xu-a čäčäk yid (4)///// yimış ulatı tapıyın udu(y)-in (5)///// küčüm kösünüm ašilip köni yol-qa••(6)///// Q'T' ärsär yana inčä tip y(a)rliqadi••äšidin (7)-glär qamay tirin quvray••tapıyšağ ayančang köngül-lüg oyuł oyuł (8)qiz ögingä qanginga•bu bu ma y(a)rliqamış•şlo[k] taqşutın üzä

(9)kšantı qilip ökünšär-lär

ayır ayıy köngül öritsär-lär••

ötrü ol tınly (10)-lar-nıng

öcmädük ayıy qılınč-larī öčär••

öçmiş ayıy+ qılınčlarī

(11)yana ikiläyü üklimäz

örmädük buyan-larī örär••

örmiş buyan (?)

(12)qavz-atmış mäning öz ky-äm

qararıy ayıy qı(1)inčim••

qač yil-t[in] (13)bärü baldurdı••

qanat urup učqalır••

qatıylanmış-liy ädgü qutluy-lar

(14)qanturz-unlar mäning

qatıylanmaq-liy ädgü qutluy-lar tip

kšantı ötünü (15)küsüşüm-ni••

qalangurup öčär qılınčim-nıng

qart-ların káz-äyin

qācan (16)-qatāgi öcmäz-ün••

sız-iz udun niz-vanī

siniy süngüküg siz-latur
(17)sumur tay tæg qilinč-tin
silkinip ünüp barayin tip a[ntay]
(18)sımtay-in qilmış qilinčın
sitirmış tæg arız-un

antay qilmış qilinčim
(19)arımaz ärsär··anačım
avış tamu qanta ärsär
[an]ta tolu turayın

qum tæg (20)tälim yaz-uqumın··
qopdın singar tälmirip
qodı čökä olurup
(21)qoturu kšantı qılır··m(ä)n

öngin öngin až-un-larta
üküş (22)qiltım ärki buyan-lar
öz öz öz käd üküš
ökünürmn (23)qilinčimın·
üklmädün işilz-ün··
örtlög tamu-ta (24)tuymayın
önüş yol-uŷ tapayın··
ötläp ärigläp yomŷini

(25)üntüräyin sansar-tın··
üč yirtinčü-nüng baŷışi
öz-üm bolup (26)//Krk'N··
ötgürü qamay tinly-larŷ··
öngräki qutluŷlar taplamış
(27)örüg amil inčgülüg
ögdi-lig nirvan-qa iltäyin··
üč ärd-ini (28)-kä [ütü]nüp·
üč yoluŷ bākläyin

(29)baqmayu yavız qilinč-qa

basitmiş m(ä)n tapıçsız..
 baylıy mäning (30)öz ky-äm..
 bayanu yirig tapmaz m(ä)n
 bayumaqlıy çoy yalın
 barmu nämän (31)bulmaz m(ä)n..
 bay(l)a(y)urmaq-lıy t(ä)rs bilig
 barça qılınç-larıy qılturdı
 (32)baş qy-am-ni yirkä tägürüp..
 barçamantal-ın yükünüp..
 batırın yatıp (33)ıyılayu
 barçanı kšantı qılurm(ä)n

 tümgä biligsiz öz ky-äm..
 törüsüz qılınç (34)-larıy qılıntüm
 töpün bunqa qılınçım
 töz-'ingä-tägi cınñarıp
 töz-ün-lär (35)-ning üskintä
 tört tört-olurumın çökidip

<翻 訳>

翻訳は断片Ⅱの場合と同じ方法を用いたい。

(1)/////ねばならない (2)/////五指を曲げ、大(3)/////種の聖なる食物、飲物、華花、香(4)/////果物などの供物を(5)/////我が力が増大し、正道へ(6)/////……なら、復たかくの如く宣うた。汝ら聴聞(7)せよ！ 全ての仏僧集団よ！ 敬虔なる心もてる男子(8)女子の母父へこれこれと宣うた詩において、

(9)彼らが懺悔をなし悔悟するなら：重悪心を発露するなら：その時その衆生(10)の：消滅しなかった：悪業は消える：消えた悪業は：(11)再度増大せず：現われなかった福德が現われる：現われた福德は〔？増大する〕：

(12)取り巻いた我自身を：黒い悪業が：永年(13)来締めつけた：翼を打っ

て正に飛び立たんとす：精進善果は：完成すべし！我が：精進善果もと
：懺悔を申し出て我が(15)望みが：増大し、消滅する我が業の：潰瘍を巡
り歩こう：いつ(16)までも消えるべきでない！：

にじみ出る(?)煩惱は：肉を骨を痛めつける：(17)須弥山のごとき（大
量の）業を：振り払い上って行こうと〔かくの如く〕：(18)怠情により為
した業を：丸裸になったごとくに消滅すべし！：

かくの如くに為した我が業が：(19)清浄しないなら母よ！：無間地獄が
どこかにあるなら：そこに閉じ込められていよう！

砂のごとき(20)大量の我が罪惡を：全方向に見遣って：跪いて坐り：(21)
一心に我々は懺悔する：

各各の世界で：多く(22)我は為したか福德を：各各各各大量に：我は後
悔する。(23)我が業を増大せず減少すべし！：火炎地獄に(24)生まれたくな
い：上昇道を見つけよう：注告し衆生を：(25)上らせよう輪廻から：三界
の師と：自らが成って(26)……済度させ一切衆生を：過去の善果もてる
ものが満足した：(27)平穏なる：賛美の涅槃へ導こう：三宝(28)を祈り：三
道を堅固としたい：

(29)見てはならない(?)、惡業に：我は敗れた助けもなく：（煩惱）に
縛られた我(30)自身は：礼拝所を拝まず：富裕威光は：在るのか？（否）
如何ほども(31)得ていない：取り巻かれた邪惡の知（で）：全ての業をな
した：我が頭を地につけ：一切の曼陀羅を祈り：碗をもって伏し(32)泣く
：一切を懺悔する：

無能無知の我れ自らは：無法な諸業(34)を為した。：根底に、我が業の
：根本にまで吟味し：諸善人に(35)面し：四四坐(?)に足を組み……

5. 断片 IVa IVb は、1. で示したごとく王樹柑によって漢文の註が付せ
られた版本断片である。IVa は 5 行が残されているが、第 1 行目は判読

困難であり、3行目の中程は大きく破損している。IVb はこれよりは若干大型で、5行が残されているが保存状態は非常によい。

この2葉の版本断片は、体裁は等しくないが、内容は共に『白傘蓋陀羅尼經』の1部であることがわかった。ウイグル仏典中にこの『白傘蓋經』に該当するものは曾て F. W. K. Müller が Uigurica II に発表したベルリン所蔵の諸断片^①と、石浜純太郎博士の発表した大谷蒐集品中の2枚の小断片^②を知っているが、何れも断片IV同様に梵字音注の付せられた版本である。この内、Müller の発表したテキストから、断片 IVb がベルリン所蔵の T. IIIM. 225 (24) と内容、綴字、語の位置に関して完全な一致を示すことがわかった。T. III M. 225 の中でこの(24)のフックシミりは公表されていないが、Uigurica II に掲載されている T. IIIM. 225 に所属する巻頭部分の体裁は IVb とよく似ているので、IVb と T. IIIM. 225(24) が共に同一版本から印刷された可能性はある^③。

漢訳と同じようにこの『白傘蓋經』のウイグル語訳には複数の種類が存在した可能性があるため、IVa と IVb が同一種類の一仏典の一部か否かは判断できない。IVa は仏典の最後の部分に相当するが、陀羅尼につづいて mantra sitdapatri-niṅg ösän darni sudur とあるのはこの仏典の題目を表わしたものと考えられる。これは『神呪白傘蓋の心陀羅尼經』と訳することができるが、これと全く一致する題目の仏典は今のところ漢訳などには見つかっていない。

以下には断片 IVa IVb の転写翻訳を掲げる。なお、梵字の音注はサンスクリット来源語彙に付されているが、ウイグル仏典中にはこれに似たものが他にも多数現われているので、この梵字音注に関しては別の機会に総合的に研究発表したい。

<テキスト>

IVa

- (1)
- (2) anali visatī viri vīradarī banta bantanī////
anale viśade vītre vajradhara bandha bandhana
- (3) xung xung pt pt //////////// pata Q ///
hām hām phaṭ phaṭ paṭa

(4) mantir-a sitdapatrī-ning ösän d[a]r[n]i s[udur]

mantra sitātapatra dhāraṇī sūtra
神呪 白傘蓋 の 心 陀羅尼 經

(5) namo bud· namo d[rm] [namo sang]a

namo buddha namo dharmā namo saṃgha

(2)~(3)の陀羅尼は Müller や石浜博士のテキストには現われていないが、漢訳敦煌本の『大仏頂如来頂髻白蓋施羅尼神呪經』の次の陀羅尼とよく似ている：阿那毗阿那[?]毗舍剌毗舍剌[?]鞞囉鞞囉[?]捺囉駄唎[?]畔陀畔陀[?]儼跋捺囉[?]勝弥撥吒[?]呼吽呼吽[?]撥吒[?]撥吒[?]訶呼吽咄[?]嚩[?]吽伴駄[?]撥吒[?]莎莎婆訶

IVb

(1) barmiš-lar-qa kön-in qätiylāndači-lar-
往ったもの達へ 真に 精進するもの達

(2) qa yūkünürmn t(ä)ngri-lär irž-i-larīnga
へ 敬礼する(我れ)。 天人達 仙人達へ

(3) yūkünürmn бүтмиш vityadarī ärž-i-larqa
敬礼する(我れ)。 成就した 持明呪 仙人達へ

(4) yūkünürmn š(a)p alqış öz yaš-ta ulatī-
敬礼する(我れ)。 記 別 万 命 等

(5) larīy·bulmīš-larqa·yūkün(ü)rmn š(a)p [al]qış
を 得たもの達へ 敬礼する(我れ)。 記 別

これに該当する敦煌漢文は次のごとくである。

(1) 敬礼已往 真宝者

(2) 敬礼一切諸天仙

(3) 敬礼誓能持呪仙

6. 以上で扱った中村不折氏旧蔵のウイグル語文書断片は、『天地八陽神呪經』『白傘蓋陀羅尼經』更に詩文で書かれた「懺悔」に関する仏典の断片類であることがわかった。これらの仏典断片はウイグル文献研究にとって今後においても重要な資料となるであろう。

これまで我が国に存在するウイグル文書といえほとんどが大谷蒐集品であって、それ以外にこれだけまとまった量の文書が存在したことは誰によっても知らされていなかった。この文書の公表と研究は本来ならずと以前に行われるべき性質のものであった。それを現在になって筆者の扱いえたことは幸せというべきである。(京都大学文学部助手)

註

1.

①王樹枏に関しては『アジア歴史辞典』Vol. 2 平凡社1959 p.26 に詳しい。

②拙稿 An Uigur fragment of *kšamayati* text, A. von Gabain 生誕80周年記念論文集, Otto Harrassowitz (1979年末発行予定) に掲載予定。

2.

①大英博物館所蔵 Or. 8212(104).

②龍谷大学所蔵 No. 542.

③羽田亨「回鶻文の天地八陽神呪経」『東洋学報』Vol. 5 Nos. 1, 2, 3 1915.

④W. Bang/A. von Gabain/G.R. Rachmati: Türkische Turfantexte, VI APAW 1934.

⑤これらの研究文献に関しては, L. Ligeti, Autour du Säkiz Yükmäk Yaruq, *Studia Turcica* (L. Ligeti ed.) Budapest 1971 pp. 291~319 に詳しい。又, これに山田信夫氏の労作「ウイグル文天地八陽神呪経断片」『東洋学報』Vol. 40 No. 4 1958 pp. 79~97 を追加しておきたい。

⑥総合的研究に先がけて, この仏典の全容に触れようとしたのは, ⑤の Ligeti と小田寿典「トルコ語本八陽經写本の系譜と宗教思想の問題」『東方学』第55輯 1978 pp. 104~118 を掲げることができる。

⑦黄文弼『吐魯番考古記』北京 1954 p. 113.

⑧W. Radloff, *Kuan-ši-im Pusar*, St-Petersburg 1911 pp. 91~103.

⑨ファクシミリの出されたのは, TTVI に掲載された2葉にすぎない。

⑩参考にした漢文は, 義浄訳『仏説天地八陽神呪経』大正 No. 2897.

⑪LではHの puši ulati は脱落している。又 artamaz の前に aqitmaz が², 後に buzulmaz が挿入されている。

⑫サンスクリット来源の借用語彙に関しては, 拙稿「『古代ウイグル語』におけるインド来源借用語彙の導入経路について」『アジア・アフリカ言語文化研究』15 東京外国語大学・A研究所 1978 pp. 79~110 を参照されたい。

⑬なお, サンスクリット *bodhisatva* 「菩薩」は普通は bodistv の形式を用いるが², Hでは常に bodisvt の形式が現われる。この形式はソグド語 *pwtyšβt* (*pwtyšβ* の複数主格) からの一時的借用形式と推定できる。このサンスクリットは断片 I にも何度かみられるが LB と同じく常に bodistv を用いておりHに現われる形式はない。この点においてHは他の断片と孤立している。

<テキスト註>

省略記号は p. 03 参照。又, Bang の註にあるベルリン断片の情報は必ずしも

正確と異いえない, cf. 註(19)(21). Bang の註記法では L=B の場合は特に書き記されていないが, ここではこの場合を L=B とは考えず, L=B? として扱いたい。

(1)~(2) könglin の前にはHでは bir 「一」, L(B?) では siziksiz 「疑いのない」が先行している。

HL(B?) では I の.....könglin bu nom.....tapınur udunur ärtılär と t(ä)rs tätrü.....kirtkünmäz ärtılär は入れかわっている, cf. p. 06. ärt]i-lär, Hではärti.

(3)ärdi-lär, H では ärti.

(4)ol antay, HL(B?) にはない。köngül üçün, HL(B?) は köngül. köni, H では kirtü.

(5)~(7)parmit-larda, HL(B?) では parmitqa. aqıysız arıy.....tägir-lär までの文章については, cf. p. 05. bolurlar, H boltı, L(B?) は boltılar. balıqı は HL(B?) にはない。又 tolu 「満」に対して, 漢文義浄訳では「漏」であるが, 玄奘訳などでは「満」とある, cf. TTVI p. 188, 大正, No. 2897 p. 1423, 羽田テクト 1. 109.

(8)bučqaqsız, HL(B?) にはない,

(9)yoridači bolup, H は yoriyur 「歩いている」 L(B?) は yoriyurlar. boşyunur-lar, HL(B?) では boşyunur. siz, L(B?) では biling の後に立つ。

(10)birök, nom, atly は HL(B?) にはない。

(11)~(12)anta säkiz.....qut-lar vaxšiklar に関しては, cf. p. 03.

(13)ayırlayur の後に HL(B?) では tapınur udunurlar 「礼拝する」が立つ。

(15)~(16)qamay tınlı-lar.....nomlasar に関しては, cf. p. 04.yörügün, HL(B?) では yörügün. uqtur[sar], H では uqsar.

(17)täring, H にはない。bilsär, HL にはない。ötrü, HL(B?) では ol.

(18)burxanlarning の前出のものはHは burqanlar L(B?) は burqan, 後出のものは HL(B?) で burqanlar. yimä, H にはない。köngüli の後にHでは ät'özi が入っているが, 羽田博士はこれについて, 「此の ät'özi (彼の身)は衍字なるべく, 到底此処に用い得べきに非ず」と述べている, cf. 註2-③ No. 2 p. 211.

(19)tip birmiş k(ä)rgäk に関しては, cf. p. 04. tip tisär の tip 及び kim は L H にはないが, 小田寿典氏の手にある彼自身による ベルリン断片に関するノートでは, B²⁶ には tip も kim も現われている, この貴重なノートの使用を許された小田氏に対してここで謝意を表したい。

(20)biliglig, HL(B?) では bilig. körklä, L(B?) ではkörtlä 「美しい」。körk, H にはない。

(21)yana, LH にはないが, 小田氏のノートによれば B²⁶ には現われている。titir, H では ärür 「……なり」。

②bilir, L(B?) では biligli (bil「知る」+(i)gli(deverbal noun)). oyruyu, H にはない, L(B?) では oyrayu. burxanlarning, HL(B?) では burqanlar.

③yirtçi, HL(B?) では yirçi「案内人」. törüg, B^(25 27) では törüg bälüg「法相を」, Lでは türügüg「種類を」. yoq の後に HL(B?) では quruy「空」が入っている。

④ötrü, HL(B?) にはない。tünlyning, burxanlarning の属格語尾 -ning は HL(B?) にはない。biligi, LB では köngli「その心」, H では köngüli.

⑤körsär, HL(B?) では bilsär「知るなら」. ötrü, HL(B?) にはない。

⑥yayıda, HL(B?) では yayılarta 又その後に öngi「更に」が入る。bulur, HL(B?) では bulır.

⑦はじめの yoq quruy の quruy は HL(B?) にはない。ol'oq は ol (指示代名詞「それ」) oq (強調の小詞) の結合形式である, この特殊な形式はHにもしばしば現われる。öng körk とその後に現われる yoq quruy とは本来入れかわるべきであって, ol kim yoq quruy titir öng körk y(i)mä ol oq ärür「無空というのは色相即ちそのものなり」を表わし, 漢文の「空即是色」に該当し, その上に立つ「色即是空」に対応すべきものである, これは単純な誤写と見做してよい, HL(B?) では正確に書かれている。

⑧2つある yoq quruy の quruy は, H では両方ともないが, L(B?) では後のもののみない。

⑨ašamaq, Lでは tüginmäk が用いられているが意味は同じく「受」を表わしている。

⑩～⑪bilig の後に L(B?) では yükmäk alqu「蘊一切」が, Hでは alqu「一切」が入る。ök, HL(B?) にはない。k(i)rgäk の後に L(B?) では bu biš yükmäkig「この五蘊を」がつづく。inčä ötkürü.....burxan titir に関しては, cf. p. 03～04. [yimä qul]- の yimä は欠損部分のスペースを考慮してHを参考にして再構した。

⑫はじめの部分の欠損は, 一応 L(B?) あるいはHによって再構したが, スペースを考えたなら〔 〕中に示したほど長文が存在したか否か疑問である。yoq qur[uy]ta, L(B?)H では yoqta, *Kuan-ši-im Pusar* では yoq qur[uy]da.

⑬～⑭ötrü ol oq ün.....titir に関しては cf. p. 03～04. burni の前に『吐魯番考古記』では yana「又」が入る。

⑮yid-yiparda, *Kuan-ši-im Pusar* では yipar-ta.

3.

①K. Röhrborn, *Eine Uigurische Totenmesse*, Berlin 1971.

②W. Bang/A. von Gabain, *Uigurische Studien*, *Ungarische Jahrbücher* X, 1930 pp. 193~207.

③ウイグル語の題名は, 'Kšantī qılmaq nom bitig' 又は 'Alqu türlüg tsuy ayıy qılınçıy ökünüp kšantī qılmaq atlı nom bitig'.

④F.W.K. Müller, *Uigurica* II, Nos. 7, 8, *APAW* 1910 pp. 76~89. W. Bang/A. von Gabain, *Türkische Turfan-Texte IV SPAW* 1930, pp. 432~450. P. Zieme, Ein uigurisches Sündenbekenntnis, *AOH* Tom. XXII 1969 pp. 107~121. M. Shōgaito, An Uigur fragment of Kšamayati text (cf. 註1-②).

⑤'Uigurische Studien' pp. 208~210. S. Tekin, Prosodische Erklärung eines uigurischen Textes, *UAb* XXXIV 1962 pp. 100~106. G.R. Rachmati (=R.R. Arat), *Eski Türk Şiiri*, Ankara 1965 pp. 177~183.

⑥ここでは毘舍婆仏から現われ, 拘楼孫仏, 俱那含牟尼仏, 迦葉仏, 釈迦仏の5仏がつづくが, この断片に前接する欠損部分にはおそらく毘婆尸仏(*Vipaśyin*), 尸棄仏(*Śikhin*)が先行していたものと推定できる。

⑦この事実を示すものとして、『慈悲道場懺法』の漢文と対照できる次のウイグル文を掲げることができる: 虚空界一切地獄今日現受苦一切衆生某甲等以菩提心 (大正 1909 p. 959) *kök-qalıq uyuşıntağı alqu tamulardağı bökünki küntä ämgäk tägintäci alqu qamay tün(i)ğlar ücün m(ä)n il kälmiş t(ä)ngrim tuyunmaq köngül üzä.....(Röhrborn 405~409).*

⑧ka- は借用語にのみ現われる音結合であるが, ka- がウイグル語の qa- ではなく kä- に調和した点は注目すべきである。a:ä の対立を無視しても k:k を調えようとしたのは, k:q の音声上の対立の厳しさを示すものといえる。

<テキスト註>

(1)bir uçluğ könglin 「1つの先もった心で」=「一心に」。vişvabu <toch. Vişvabhu <skt. Vişvabhū「毘舍婆」過去七仏の1。

(2)kántün「自ら」の後は欠損しているが, 文脈から判断して「悟りの智を得て…」の意味のウイグル語が存在したものと考えられる。

(3)käsgüklä←käs「切る」+gük(deverbal noun)+lä(denominal verb)

(4)k(a)rkasuntı<toch. *Krakasundi*<skt. *Krakucchand*「拘楼孫」過去七仏の1. kätzä←küz「巡る, 移る」+t(causative)+ä(gerund)

(6)kanakamunī<toch. *Kanakamuni*<skt. *Kanakamuni*「俱那含牟尼」過去七仏の1. kārüm←kärü「背後」+m(1st. pers. sing.), だがこの辺りの文章は全て1人称複数の主語を示しているで, 「我が後続」というのが正しいとはいいい切れない, 外には, karum<toch. *karum*<skt. *karuṇa*「悲」が考えられるが文意に

適わない。

(7)kācip barmiš「過ぎ去った」=「過去の」。bariŷ(in)←bar「行く」+iŷ(deverbal noun)+(in)(3ad. pers. sing. acc.).

(8)biräl(i)m「与えよう」は bilälim「知ろう」の誤写か? kašip <toch.(A) *Kašyap* <skt. *Kašyapa*「迦葉」過去七仏の 1.

(9)šastir <toch. *šastür* <skt. *śāstra*. šap alqış=skt. *vyākaraṇa*「記別」。

(10)šazin <toch. *śāsam* <skt. *śāsana*「教え」。šattu=šatu「梯子」cf. bilgä biliglig šatu tiktingiz「Die Weisheits-Leiter hast Du aufgestellt」(W. Bang/ A. von Gabain, *Türkische Turfan-Texte III SPAW* 1930 pp. 188~189). yumzuŷ←yumuz(?) +uŷ(acc.) cf. yumuz「round, globular」(G. Clauson, *An Etymological Dictionary of Pre-Thirteenth-Century Turkish*, Oxford 1972 p. 940).

(11)šakimuni <toch. *Śākyamuni* <skt. *Śākyamuni*「釈迦」過去七仏の 1.

(13)bošuy turur nizvanilar「自由な煩惱」=「放逸煩惱」。

(14)buusin siksilin は buu siksil に各々 3 人称 単数 対格の 人称 語尾 が 付加された形式である。この 2 単語の 来源 は 今の ところ よく わか らない が、Müller の『白傘蓋陀羅尼經』(cf. 5. の註① pp. 46~65 60~61) の 次 の よう な 文 脈 中 に も 現 わ れ る : alyu tutdačilartın inč äšan qılzun mini. buu siksil qundači-lar qarın-taqi känd-ig xundači-lar xan ičtäči-lär 'vor allen Fängern Ruhe und Frieden schaffe mir! [I] Diese, die.....*Raubenden, [II] die im Leibe befindlichen Jungen *Raubenden [III] die Blut-Trinker.....' (pp. 64~65), [I] [II] [III]は 鬼 名 が 並 ぶ も の で あ っ て (30 鬼 名 が あ る) , Müller は 真 智 等 訳 の『大白傘蓋總持陀羅尼經』と これ ら を 対 照 さ せ、[II] は「食産宮鬼」[III] は 食 血 鬼 等 の と 同 定 し た が、[I] の buu siksil qundači-lar に つ い て は 鬼 名 を 当 て て い な い、qundači は「奪うもの」という意味であって漢文鬼名列中「奪」がこれに相当するが、漢文「奪」のある鬼の内ウイグル訳と同定できていないのは第 1 番目の「奪威力鬼」とその次の「奪容顔鬼」の 2 つである、buu siksil qundači-lar が この 2 鬼の何れかであることに間違いはない、即ち buu siksil は「威力」か「容顔」を意味していると考えてよい、この内(14)のウイグル文の buusin siksilin に 当 て は め て 文 意 の 通 じ る の は「威力」である、従って [I] は「奪威力鬼」を示していると考えてよい、なお Müller が buu を bu~bo 'diese' と同じものと考えたのは誤りである。

(16)darmaxariki <toch. <skt. *dharmahāraka*「法を食する者」=「仏」

(17)tanultur.←tanu「知る」+l(passive)+tur(causative)-

(18)maytrī <skt. *maitreya*「弥勒」

⑫sumilī<toch.<skt. *sumedha*? (伝説の人物) cf. 赤沼智善 『印度仏教固有名詞辞典』 名古屋 1931 p. 657. sangatazī<toch.<skt. *Sanghadāsa*.

⑬ačadaśatru<toch.<skt. *Ajātaśatru* 「阿闍世」 *Ajātaśatru* vaidehiputra (王名) cf. 赤沼 p. 10. milintrī<toch.?<skt. *Milinda* (王名) 「弥蘭陀」 cf. 赤沼 p. 425.

⑭utpalavarnī<toch.<skt. *Utpalavarna* (比丘尼名) 「優鉢羅色」 赤沼 p. 75. kamabirī<skt. *Kampilla*? (王子名) cf. 赤沼 p. 271. rはlの誤りか?

⑮śivnyī<skt. *Śivagin* ‘*Śiva* gibi vücuda olan’ (*Śiva* のごとき身である) Sinas Tekin *Maytrisimit*, Ankara 1976 p. 117. angulamālī<toch<skt. *Angulimalāya* 「鴛仇摩羅」殺人等を犯し後に比丘となった人 cf. 赤沼 pp. 39~41.

⑯advakī<toch.<skt. *Āṭavaka* (夜叉名) 「阿吒婆拘」 cf. 赤沼 p. 17.

⑰~⑳kšanti, この単語の来源あるいは意味に関しては色々の意見があるが、筆者はこれが skt. *kṣanti* 「忍」から借用され、その意味は漢語の懺悔(=skt. *kṣamayati*)に相当するものと考えたい、懺悔を表わすということについては『慈悲道場懺法』の次のウイグル文から明らかである：今日道場同懺悔者(大正1909 p. 961) böküñki küntä bo nomluŷ oruntaqı bir tägi kšanti qilturdačılarnıñ (*Röhrborn* 1064~1066), 又, boşuy kšanti は、直訳すると「容赦懺悔」となるが、ここでは「赦罪」を意味するものと考えたい、kšanti に関する他の意見は、cf. A. von Gabain, *Maitrisimit* II Berlin 1961 p. 23, *Röhrborn* p. 7, J.P. Amussen, *Xuastvanift Studies in Manichaeism*, Copenhagen 1965 p. 152~. yütürmiş (人名) ←yütür 「荷を積む」+miş (past participle).

㉑bütür (人名) ←büt 「完成する」+(ü)r (aorist).

㉒özkyämiz←öz 「自身」+kyä (diminutive)+miz (1st. pers. pl.)=「我ら自ら」。

㉓torqu ‘a silk fabric’ işgirtı ‘a kind of Chinese embroidered silk brocade’ G. Clauson p. 539 261.

㉔amīnuži<toch.<skt. *amanuṣya* ‘demon’ cf. F. Edgerton, *Buddhist Hybrid Sanskrit Dictionary*, New Haven 1953 p. 62.

4.

<テキスト註>

(8)bu bu ma=bu bu yimä 「これこれと又」。 ślok<toch. *ślyok*<skt. *śloka*.

(11)örmiş buyan の後には「増大する」に当るウイグル語が脱落しているものと考えたい。

(12)özkyäm←öz 「自ら」+kyä (diminutive)+m (1st. pers. sing.) 「我れ自ら」。
qī(1)inčim は QYRYNCYM と綴られているが、RはLの誤写であろう。

(13) qanat ur-「翼を打つ」 cf. kanat urmak 'kanat çırpmaq' (翼をばたつかせる) *Tarama Sözlüğü* IV Ankara 1969 p. 2201. uçqalır←uç「飛ぶ」+qalır (finit verb「正に……せんとす」)。

(14) ädgü qutluylar の後には qanturzunlar「完成すべし!」が省略されているものと考えたい。

(16) sıziz? sızir←sız「にじみ出る」+(i)r (aorist) の誤りか??

(19) anačim←ana「母」+č(diminutive)+(i)m (1st. pers. sing.)「母ちゃん」。
aviš<toch. aviš<skt. avici「無間地獄」。

(30) bağanu, cf. bayınū [kas. von bayin+ū] 'Anbetung' W. Radloff, *Versuch eines Wörterbuches der Türk-Dialekte* IV St. Petersburg 1911 p. 1450. bar-mu←bar「有る」+mu(interrogative)＝「有るか?」

(31) bay(l)a(y)urmaq「取り巻かれた」? 文字通りには B''''''LURM'Q̄ となっている。

(32) bašqyamni←baš「頭」+qya(diminutive)+m (1st. pers. sing.)+ni(acc.)＝「我が頭を」。barčamantal←barča「全て」+mantal(<toch. maṇḍal<skt. maṇḍala)＝「全ての曼陀羅」。batır<sogd. p'ttr「碗」

(34) bun<sogd. βwn「基礎」

5.

① F.W.K. Müller, *Uigurica II* APAW 1910 pp. 50～75.

② 石浜純太郎「回鶻文白傘蓋陀羅尼經の断片」『龍谷大学仏教史学論叢』1939 pp. 115～118, 石浜博士は2葉の断片を扱ったが、これらは『西域考古図譜』下巻西域文書③の(1)(2)にファクシミリが載せられている。

③ Müller のテキストの pp. 52～53 1—5 に該当する。

④ *Uigurica II* に載せられた巻頭部分には、仏像図以下に10行が現われている。又 T.F. Carter, *The Invention of Printing in China and 1st Spread Westward*. New York 1955 (第2版) p. 104 にはこのベルリン断片のファクシミリ3葉が掲げられているが、それらは *Uigurica II* のテキスト T.IIIM. 182 (p. 65) T.IIIM. 231(p. 64) T.IIIM. 231(p. 74) に該当する。なおこれら断片は何れも折本であるので、断片IVが同じく折本であった可能性は強い。又, IVb と T.IIIM. 225(24)とを比べたなら、前者は5行目の最後の単語が [al]qiš のごとく欠損しているのに、後者はそこは完全で、反対に前者の完全な1行目の最後の単語が qat... [iγ]landači-lar のごとく欠損している。このことは、IVb が T.IIIM. 225(24)から撮影された写真でないことを証明している。

<テキスト註>

IVa

(4)ösän は skt. の *hṛdaya* に相当する, cf. ösän tarni-si 'die Haupt (*hṛdaya*)-*Dhārānī*, G. Kara/P. Zieme, *Fragmente tantrischer Werke in uigurischer Übersetzung*, Berlin 1976 p. 79.

※松本栄一「敦煌本唐訳白傘蓋陀羅尼經」『東方学報』東京第六冊1936 pp. 1～18. 但し下線は筆者による。

IVb

(2)～(3)irži～ärži<<skt. *ṛṣi*「仙人」。vityadari<toch.<skt. *vdīyādhara*「持明呪者」cf.『翻訳名義大集』京都大学 1973 (第5版) 4271.

※元の沙囉巴訳『仏頂大白傘蓋陀羅尼經』(大正976)では(1)南謨諸向正行衆 (2)南謨以呪詛厭禱亦能饒益諸大天仙衆 (3)南謨成就持明衆。元の真智訳『大白傘蓋總持陀羅尼經』(大正977) (1)敬礼所有入実者等 (2)敬礼天仙呪咀及有祐力能等 (3)敬礼有誦持明呪 Müller はこの後に続く獲成就者等を(4)～(5)に当てている。